

# 清瀬の鉄道物語

市内には現在西武池袋線の清瀬・秋津駅、そしてJR武蔵野線の新座貨物停車場の一部が存在しています。元々清瀬駅と秋津駅は、武蔵野鉄道の駅として開業しました。

清瀬駅は、開業当時の駅の1つでしたが、大正4年（1915）3月に駅の開業予定地から別の場所へ移動する通達に当時の住民が反対した結果、清瀬駅が誕生しないまま、武蔵野鉄道は大正4年4月18日に開業を迎えました。ただし、清瀬駅の工事は中止されていなかったようです。

その後、大正6年（1917）3月、「清瀬荷扱停車場」という名称で貨物停車場が申請された翌月には、駅名の混同を避けるため、最初に開業予定であった清瀬駅は秋津駅に名称が変更になり、同年12月12日に現在の場所に秋津駅が誕生しました。

一方、清瀬駅は武蔵野鉄道の電化に伴う鉄道の高速化によって誕生した駅の1つです。大正13年（1924）6月11日に田無町駅（現、ひばりヶ丘駅）と共に開業しました。



秋津駅（昭和50年代）

開業当時の秋津駅は、島式のホームでしたが、昭和48年に現在の対面式ホームへ生まれ変わっています。



初代清瀬駅

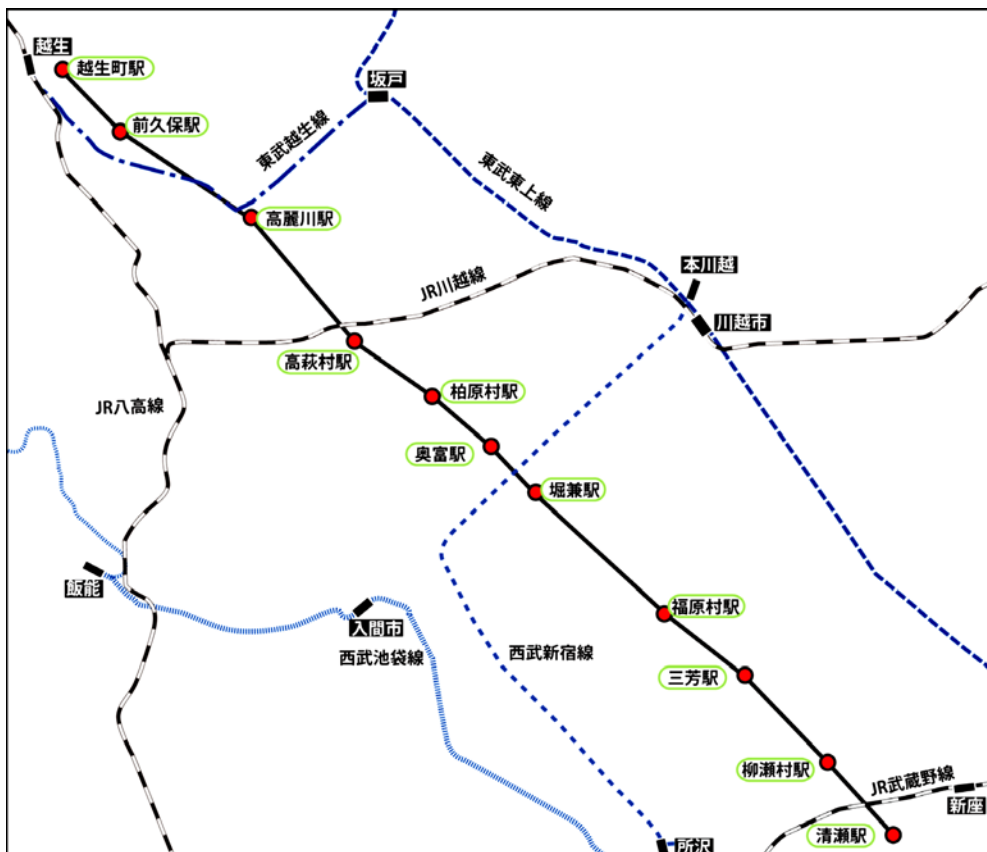
初代の清瀬駅は、木造平屋造りでした。昭和28年にコンクリート造りの駅舎になりました。現在のように橋上駅になったのは、昭和45年になります。

## 幻の清瀬駅物語

昭和の初め頃、練馬区や北多摩地域には池袋駅を起点とした武蔵野鉄道と東上鉄道が既に存在していましたが、両鉄道の間地域には郊外へ向かう鉄道が敷設されておらず、近隣住民は、どちらかの鉄道会社の駅には行かなければならず不便を強いられていました。

そこに目を付けて誕生したのが、東京青梅電気鉄道株式会社です。この会社は、昭和3年（1928）2月に池袋駅から青梅駅間の鉄道免許を取得するために発足した会社です。この計画に清瀬村を含んだ沿線地域は賛同し、3月には池袋駅～青梅駅間の免許が受理されます。

翌月には中間地点であった清瀬駅を起点として、埼玉県越生町まで支線を敷設する申請が受理されます。この駅は、路線予測平面図と現在の地図を重ね合わせて割り出すと、現在の下清戸4丁目、大林組技術研究所周辺に該当します。



東京青梅電気鉄道 清瀬～越生間路線図

その後、昭和恐慌により資金繰りが困難となり、昭和4年（1929）池袋～越生駅間のみには鉄道敷設を短縮し、翌年には会社名を東京西北鉄道に変更し、工事延長を求めます。しかし、延長は却下され、この計画は幻と終わってしまいました。